

滋賀県埋蔵文化財地域展Ⅳにおける試みとその成果

— 「広げる」「深める」「育てる」「つながる」展示へ—

木下義信

目次

1. はじめに
2. 展示の概要
3. 本展での試み
4. おわりに

— 論文要旨 —

これまで実施されてきた埋蔵文化財の展示は、すでに興味をもっている方へ向けて、さらにその知見を「深めて」もらうための展示にとどまっていたものが多かったように思う。しかし、2018年に文化財保護法の改正がなされた今、文化財のより積極的な活用が謳われるなかで、文化財に関わる人たちを「広げる」ための展示が求められていると理解するべきである。それこそが、私たちが調査法人として社会にできる地域貢献であり、社会に対して背負っている責務ともいえる。

当協会は、2020年に設立50周年を迎えた。そこで例年夏に滋賀県埋蔵文化財センターにて実施している「滋賀県埋蔵文化財地域展」を、協会設立50周年記念事業の一環として位置づけ、県内の発掘調査史を振り返る展示を行った。この展示では、当協会の発掘調査の実績を発信する事業のひとつとして、「広げる」「深める」「育てる」「つなげる」という4つのキーワードを目的とし、さまざまな試みを行った。特に「広げる」ことについては強く意識し、広報や展示内容等において、「一般層」の取り込みを図った。その他、「深める」「育てる」ための各種試みを行い、それが中長期的な時の経過の中でさまざまな「つながり」を構築していくものだと考えた。

——— キーワード

展示 「広げる」「深める」「育てる」「つながる」